

## 間質性肺炎における SP-D 測定の有用性の検証

### ・はじめに

間質性肺炎とは、肺の間質（肺の空気が入る部分である肺胞を除いた部分で、主に肺を支える役割を担っています）を中心に炎症を来す病気です。呼吸困難（息切れ）や咳嗽（せき）が主な症状です。SP-D（サーファクタント D 蛋白）は間質性肺炎の検査です。SP-D は主に肺の肺胞上皮細胞とクララ細胞により産生されることから肺に特異的な蛋白であり、役割として肺胞マクロファージによる細菌貪食を促進し、気道-肺胞系における生体防御機能において重要な働きを担っています。また、肺胞中の SP-D は一部血中に移動しており、様々な疾患の間質性肺炎で上昇するとされています。

### ・対象

九州大学病院呼吸器科において平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日までに間質性肺炎疑いまたは診断された患者さん約 100 名を対象に致します。

対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

### ・研究内容

本研究では化学発光法により高感度に血清中 SP-D を検出する試薬（ヤマサ醤油株式会社製造、協和メディックス販売）の評価とともに、間質性肺炎を中心に近年増加している薬剤性間質性肺炎の早期発見、間質性肺炎の活動性、予後の判定、また、同様な間質性肺炎の検査である KL-6 との比較も行い、SP-D が病態のモニタリングに有用であるかを明らかにするものです。

この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な負担が生じることはありません。

### ・個人情報の管理について

個人情報漏洩を防ぐため、九州大学検査部においては、個人を特定できる情報を削除し、データの数字化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております。

また、本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

## ・研究期間

研究を行う期間は承認日より平成 29 年 3 月 31 日まで

## ・医学上の貢献

本研究により被験者となった患者さんが直接受けることができる利益はありませんが、間質性肺炎の動向を KL-6 より早く捕えることができ間質性肺炎の早期診断に役立つのではないかと考えています。

## ・研究機関

研究責任者：九州大学病院 検査部 部長 康 東天

研究分担者：九州大学病院 検査部 技師長 堀田多恵子

(研究計画書作成担当者)

九州大学病院 検査部 主任衛生検査技師 山中基子

九州大学病院 検査部 主任臨床検査技師 酒本美由紀

共同研究者：九州大学病院 呼吸器科 講師 原田 大志

九州大学病院 呼吸器科 助教 濱田 直樹

研究事務局：

九州大学病院検査部

連絡先担当者：九州大学病院検査部 技師長 堀田多恵子

電話：092-642-5749

E-mail：thotta@med.kyushu-u.ac.jp